政策番号	20	政策分野	歩くまち

基本方針	市民，事業者，行政が一体となって「歩いて楽しいまちづくり」を推進することにより，クルマを重視したまちとくらしを，京都にふさわしい「歩く」ことを中心としたまちとくらしに力強く転換していく。

担当局	都市計画局	共管局	建設局，交通局

政策に関係する主な分野別計画等	「歩くまち・京都」総合交通戦略 京都市高速鉄道事業経営健全化計画 改訂京都市自転車総合計画

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価		23年度評価値	32年度目標値	24年度	25年度	26年度評価 前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	公共交通機関について残念と評価した割合(%)	12.6	6.3	-	c	14.7	13.2	11.2	82.1%	b
2	放置自転車台数(台)	4,200	1,400	a	a	1,536	1,019	1,400	127.2%	a
				a	b					a

施策番号	施策名	参照ページ	評価 24年度	25年度	26年度
2001	世界トップレベルの使いやすさをめざした公共交通の再編強化(1指標)	207	a	a	a
2002	歩く魅力を最大限に味わえるような歩行者優先のまちづくり(1指標)	209	a	b	b
2003	歩いて楽しいくらしを大切にするライフスタイルへの転換(「スローライフ京都」大作戦)(1指標)	211	−	b	a
2004	地下鉄の魅力向上とまちづくりへのさらなる活用(1指標)	213	a	a	a
2005	歩行者と共存可能な自転車利用の促進(1指標)	215	a	a	a
	(5施策平均)		a	a	a

政策の客観指標総合評価 (政策の客観指標評価:施策の客観指標評価＝1:0.5)	24年度	25年度	26年度
	―	―	a

2－1 市民生活実感評価

番号	設問	評価 24年度	25年度	26年度
1	京都では，過度な自動車利用を控え，歩くことを中心としたライフスタイル(くらし方，生き方)が大切にされている。	c	c	c
2	京都での移動には，公共交通が便利である。	b	b	b
3	歩いてこそ魅力を満喫できるまちとなっている。	b	b	b
4	まちなかや観光地において，自動車による渋滞が減っている。	d	d	d
5	地下鉄，市バスは，市民生活に役立っている。	a	a	a
6	駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により，自転車と歩行者が共存できている。	d	d	c
	市民生活実感調査総合評価	c	c	b

2－2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

24年度 順位	24年度 %	25年度 順位	25年度 %	26年度 順位	26年度 %
16	13.9%	22	77.5%	21	79.6%

3　総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている	25年度	C
	【客観指標】●公共交通機関について観光客が残念と評価した割合は，目標値には至らなかったものの，公共交通機関の利便性向上等に伴い前年度から減少し，c→b評価と改善した。 ●放置自転車台数については，駐輪場整備や撤去強化によるマナー・ルールの向上を図ったことから，3年連続a評価と高い評価で安定している。 【市民の実感】●市民の実感については，全体として3年前からほぼ同様の評価であるが，今年度は自転車と歩行者の共存の項目がこれまでのd→c評価に改善されたことを受け，総合評価もc→b評価に改善された。 ●ライフスタイルが大切との実感については，市民や観光客の皆様に対して，公共交通マップの配布や市民しんぶんへの情報掲載などにより，公共交通利用促進を図る情報の提供などを行っているが，まだ十分に浸透していないと考えられることから，3年連続c評価が続いている。 ●公共交通の便利さや，歩いてこそ魅力を満喫できるまちについては，3年連続b評価と安定している。 ●まちなかや観光地の自動車渋滞については，広報活動の範囲を広げているものの，マイカーで来訪される観光客はいまだに多く存在し，特に割合が多い近畿圏や東海地方への事前周知が効果的に行われていないと考えられることから，3年連続d評価と低い評価が続いている ●地下鉄・市バス等の公共交通の便利さについては，3年連続a評価と高い評価で安定している。 ●自転車と歩行者の共存については，走行空間の整備や自転車利用者のマナー啓発等，ハード・ソフト両面の取組を進めてきたことにより，ある程度改善状況にあると実感されたと考えられ，d→c評価と改善した。 【総括】●市民の実感については，未だにc又はd評価が見られるが，総合評価としては客観指標及び市民の実感ともに，一段階改善されたことから，「歩くまち・京都」の取組が着実に推進しているものと思われる。 ●今回，政策の客観指標評価がb評価からa評価に改善されるとともに，市民生活実感調査総合評価もc評価からb評価に改善されたことなどにより，総合的な評価はB評価となった。こうしたことを総合的に勘案したところ「歩くまち・京都」の取組について一定浸透してきているといえる。	24年度	B

今後の方向性の検討

＜この政策を構成する施策とその総合評価（客観指標評価＋市民生活実感評価）＞

施策番号	施策名	総合評価			参照ページ
		24	25	26	
2001	世界トップレベルの使いやすさをめざした公共交通の再編強化	B	B	B	208
2002	歩く魅力を最大限に味わえるような歩行者優先のまちづくり	B	B	B	210
2003	歩いて楽しいくらしを大切にするライフスタイルへの転換（「スローライフ京都」大作戦）	C	B	B	212
2004	地下鉄の魅力向上とまちづくりへのさらなる活用	A	A	A	214
2005	歩行者と共存可能な自転車利用の促進	C	C	B	216

＜今後の方向性＞

●「歩くまち・京都」の実現に向け，①既存の公共交通の再編強化，②歩く魅力を最大限に味わえる歩行者優先のまちづくり，③歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換を推進する。

●既存公共交通の再編強化に向けては，地下鉄・市バスの更なる安全性と利便性の向上や，高齢者・障害のある方を含め，すべての人が安心・安全で円滑に移動できる交通バリアフリー化など，ネットワークを充実させ，世界トップレベルの使いやすさを目指した取組を推進する。

●歩行者優先のまちづくりに向けては，歩道の拡幅等による安全でゆとりのある歩行空間に向けた「歩いて楽しいまちなかゾーン」の推進や，パークアンドライドの更なる定着化など，ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現に向けた快適な道路空間の構築に取り組む。

●歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換に向けては，利用者の視点に立った公共交通に関する情報の発信や，市民・観光客に公共交通利用への転換を促すモビリティ・マネジメントの推進など，様々な方法でライフスタイルの転換を促すコミュニケーション施策を展開する。

政策名	20	歩くまち

指標名	公共交通機関について残念と評価した割合（%）

担当部室	歩くまち京都推進室	連絡先	２２２－３４８３

1　指標の説明

観光客へのアンケートで公共交通機関について「残念」と回答した割合

2　指標の意味

本市の公共交通状況に対する観光客の不満の割合を示す指標

3　算出方法・出典等

出典：京都観光総合調査

4　数値

10年後の(平成32年度)目標値(%)	平成24年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	12.6	6.3	現況値(平成23年度)から半減

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	14.7	13.2	1.5%減少	11.2	平成23年度数値（12.6%）より毎年0.7%減少	82.1%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値		6.3%	32年度	-9.5%	現況値（平成23年度）から半減

備考	

5　評価基準

公共交通機関について「残念」と回答した割合について，単年度目標値の達成度が
ａ：100%以上
ｂ：80%以上100%未満
ｃ：60%以上80%未満
ｄ：400%以上60%未満
ｅ：40%未満

6　基準説明

単年度目標値の達成度が100%以上の場合を最高のａとし，以下20%刻みで設定した。

7　評価結果

24	25	26
-	c	b

指標名	放置自転車台数（台）

担当部室	自転車政策推進室	連絡先	２２２－３５６５

1　指標の説明

京都市内の鉄道駅周辺における放置自転車の台数

2　指標の意味

「歩くまち・京都」の実現に向けた進捗状況を示す指標

3　算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4　数値

10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	4,200	1,400	平成11年度から平成22年度の減少率を踏まえ，平成21年度数値（4,200台）から約65%減少すると試算。

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	1,536	1,019	517台減	1,400	平成32年度目標値を達成したことから，単年度目標については，最終目標値である1,400台とする。	127.2%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値					

備考	平成25年度に平成32年度目標値を達成することができたため，単年度目標値については，最終目標値である1,400台へと見直した。

5　評価基準

単年度目標値に対する達成率
a：100%以上
b：90%～100%未満
c：80%～90%未満
d：70%～80%未満
e：70%未満

6　基準説明

単年度目標値の達成度が100%以上の場合を最高のａとし，以下10%刻みで設定した。

7　評価結果

24	25	26
a	a	a